

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年7月6日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) No.27

## 本間氏証言も革マル派の内部対立を裏付ける！

JR総連側が革マル派と無縁だと主張する理由に挙げている両者の「対立」は、実は革マル派内部の主流派とJR派との「対立」であることを検証してきた。元JR東労組中央執行委員(現JR労組委員長)の本間雄治氏の裁判での証人尋問(2009年3月3日)でも、それを裏付ける証言がみられるので紹介したい。

(被告代理人)陳述書を拝見しますと、本間さんたちがいたJR内の革マル派というのと政治党派としての革マル派中央ということとの間に緊張関係があったことがあるということが述べられていますけれども、これは、時間的に言うと、いつごろのことを指しておられるんですか。(本間)1991年だと思いますけれども、その年の3月5日に行われた革マル派の定時集会で3.1提起というものが出されまして、いわゆるその党内での路線の問題について対立をしておりました。(代理人)路線対立ということですか。(本間)そうです。

(原告代理人)解放」を読んでいるんでしょう。解放」を読んでいながら、革マル派の1991年3月5日の集会の内容とか、92年3月1日の春闘集会の内容とか分からないというのはおかしいでしょう。(本間)91年の3月の集会は参加していましたから分かりますけれども、その後は「解放」も取っていませんので分かりません。読んでいません。(代理人)だってL読で「解放」を取っていたと陳述書で言ったのではないですか。(本間)91年までです。(代理人)それ以降は取っていないんですか。(本間)取っていないですね。(代理人)どうして取らないんですか。(本間)対立をしたからですよ。

(裁判官)先ほど反対尋問で出ましたが、あなた自身がL読と呼ばれる学習会に参加し、「解放」という雑誌を購読されていたのは、1985年から91年までと理解していいんですか。(本間)はい。(裁判官)1991年以降は、革マル派の活動としては、先ほど出ていた財担会議に出席してカンパを納めることが中心だったというふうに考えていいんですか。(本間)それは91年に対立して以降、党中央とは別な考え方でやっていくというふうに認識しておりましたから、党中央に対するカンパというよりも、JR内におけるカンパという認識でおりました。(裁判官)JR内における革マル派に対するカンパをしていたということですか。(本間)はい。

### JR革マル派は「対立」後もカンパを集約し党中央への上納は凍結！

前号の警察資料には「(JR委員会をも巻き込んだ)カンパの上納停止」とあるが、本間氏の証言によれば、JR革マル派としてのカンパは、「対立」後も引き続き集約しており、党中央へのカンパの納入を凍結していたというのが実態のようだ。これは相当な金額に上ると思われるが、カンパを集約していた小田氏や田岡氏に事実を聞いてみたいものだ(No.8を参照)。また、上記証言にある、革マル派の機関紙「解放」を取らなくなったことも、前号の警察資料にある「機関紙の購読拒否」によるものと思われる。

警察資料と本間氏の証言とを照合すると、両者の内容が符合し、「対立」の内容が何となくわかってくる。本間氏の証言をみても、革マル派内での対立はあったにせよ、あくまでも党中央(主流派)とJR革マル派との間でのことであり、検証を進めるほど、JR総連への革マル派の浸透の疑惑は、否定されるどころか、ますますその可能性が高まってくる。

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>